

## 福島第一原子力発電所現地確認報告書

### 1 確認日

令和2年1月23日（木）

### 2 確認箇所

- ・高台凍土壁プラントエリア
- ・1／2号機共用排気筒（1／2号機開閉所前から確認）

### 3 確認項目

- （1）陸側遮水壁ブライントタンクへのブライン補充作業の状況
- （2）1／2号機共用排気筒ドレンサンプピットの水位低下事象への対応状況
- （3）1／2号機共用排気筒解体工事の状況

### 4 確認結果の概要

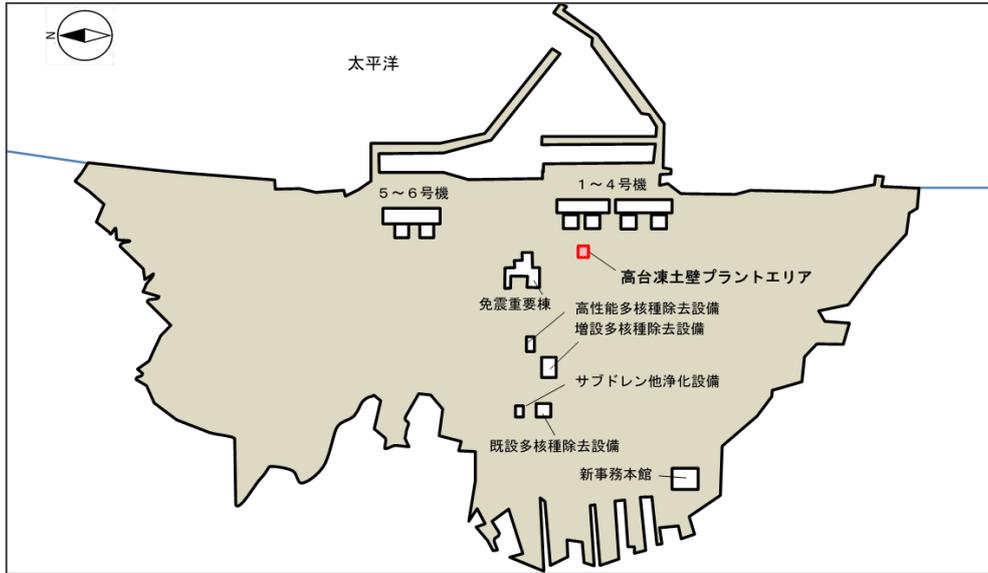
#### （1）陸側遮水壁ブライントタンクへのブライン補充作業の状況について

陸側遮水壁ブライントタンクの水位低下事象への対応として、東京電力は漏えいがあった凍結管上部継手部の補修（[1月17日確認](#)）を行うとともに、ブライン補充作業も実施するとしており、1月20日に1 m<sup>3</sup>のブライン補充作業を実施した。その後、1月21日から23日にかけて1日3 m<sup>3</sup>のブラインを補給する予定であったが、1月21日にブライン循環ポンプ<sup>※1</sup>のモータ温度異常警報が発生したことから、当該作業が中断されていた。

警報が発生したブライン循環ポンプの点検作業が終了し、本日（1月23日）から、ブライン補充作業が再開されたことから状況を確認した。

- ・ブライン補充作業は10時40分頃から開始され、ブライン循環ポンプの運転状態を確認しながら、慎重に作業が進められていた。（写真1）
- ・ブラインは運搬用のコンテナボックスから仮設ポンプとホースを用いて、ブライントタンク上部のマンホール部から補充されていた。なお、ブラインの漏えい拡大防止措置として仮設ポンプは受けパン内に設置されていた。（写真2）
- ・確認した範囲で作業は順調に行われており、ブラインの漏えい等は確認されなかった。
- ・東京電力によると、1月21日にモータ温度異常警報が発生したブライン循環ポンプについては、モータ冷却ラインのストレーナ（ゴミとり）の清掃や絶縁抵抗測定を実施した上で、1月22日に再起動したとのことであった。

※1 ブライン循環ポンプ：ブラインを冷やすための設備としてブライントタンクと冷凍機間でブラインを循環させるためのポンプ。複数台設置されており、警報発生後もブライントタンクと冷凍機間の循環は維持されている。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1)



(写真2-1)



(写真2-2)



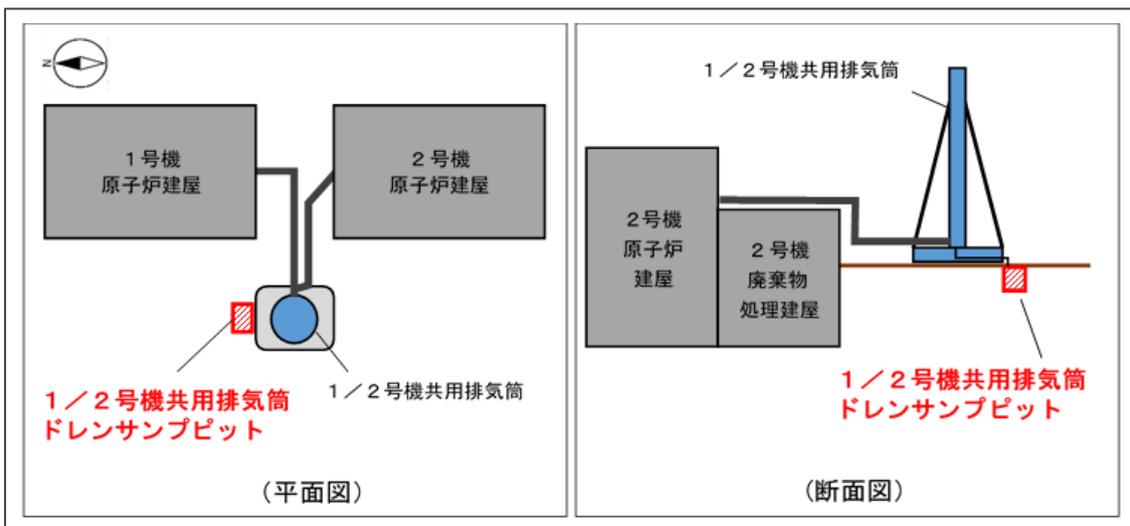
(写真 2 - 3)

(2) 1 / 2 号機共用排気筒ドレンサンプピットの水位低下事象への対応状況について

昨年 11 月 26 日に 1 / 2 号機共用排気筒ドレンサンプピット※<sup>2</sup> (以下、ピット) の水位が低下する事象が確認されたことから当該事象の対応状況について、次のとおり聴取した。なお、東京電力が過去に溯って、水位データの傾向を確認したところ、昨年 10 月 12 日以降に当該事象が見られることが判明している。

- ・ピット内の溜まり水流出の可能性を踏まえた影響緩和対策として、水位低下が緩やかとなる 325mm 以下でピット内の水位を管理するため、移送ポンプの水位管理値を変更した。(変更前：400mm で移送ポンプを起動、330mm で停止→変更後：340mm で起動、320mm で停止)
- ・2 月を目処に移送ポンプの吸込下限値を低くするための吸込管交換作業を実施し、325mm 以下で水位管理を行う。

※<sup>2</sup> 排気筒ドレンサンプピット：排気筒内に入り込んだ雨水や排気筒内で発生した結露水を貯めるための集水桝であり、大きさは約 1 m × 約 1 m × 深さ 1 m となっている。



(図 2) 1 / 2 号機共用排気筒ドレンサンプピット概略図

(3) 1 / 2号機共用排気筒解体工事の状況について

1 / 2号機共用排気筒解体工事は昨年8月1日から作業を実施しており、排気筒上部の約60mを23ブロックに分けて解体する計画のうち、10ブロック目の解体が1月20日から開始されていることから状況を確認した。

- ・現地確認時（10時20分頃）、解体装置が排気筒頂部に設置されており、断続的に排気筒の切断音が確認された。また、筒身の切断痕が視認できた。（写真3）
- ・東京電力によると、現場確認時、東方向の筒身切断（水平切り）を実施していたとのことであった。



(写真3-1)  
排気筒頂部の状況



(写真3-2)

5 プラント関連パラメータ確認

各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。